

山椒は小粒でも…

Vol.45

コロナ禍の日常



「コロナ禍において、私の日常にも市民のみなさんと同じように変化がありました。」

①会議などの公務で、県外へ出向くことがすっかりなくなりました。東京出張は昨年11月以来、名古屋出張は昨年一度も行っていない。コロナの影響でJRや近鉄の利用者が激減し経営に大打撃を与えているのを実感します。

②コロナ太りの波が私にも押し寄せてきました。平成29年の市長就任時74キロあった体重を4年かけて少しずつ落とし、がんばって69キロを維持していました。今年4月の選挙後72キロまで戻ってしまいました。市外出張などの外出が減ったことによる運動不足やストレスからくるものかと思いますが、コロナ禍の好転に向けて身も心も引き締めていきます。

③家庭菜園などの土いじりが私の中でブームになっていきます。朝市で買ったピーマンの苗

はひと月たつても全く大きくならないままで、「がんばれ」と肥料をやったとたん枯れてしまいました。それでも下手なりに土に触れ、自ら育てるのは楽しいものです。コロナ禍でホームセンターがにぎやかなのが分かります。

④自治体の首長が新型コロナウイルスワクチンを先行して打ったという内容が報道されてきました。私もかねて「自身が感染してしまうことで市政を中断させたり、停滞させたりしてしまふことになり、最終的に市民に迷惑をかけることになる」と考えていました。そこで6月4日の定例記者会見で、高齢者向けのワクチンにキャンセルによる余剰が出たら、62歳である私も先行して接種することを表明しました。そして会見後、その日のうちにキャンセルによる余剰が発生したため、接種しました。

⑤愛車のボディが傷だらけになっていきます。時間に余裕があ

るときに、「この先はどうなっているんだろう？」と脇道を探検するのが私の好きな事です。道の両脇の枝や竹をかきわけた結果の引っかき傷です。知っているようで知らない、鳥羽にはまだまだ魅力的な野山が残っていることに気付くことができました。

⑥このご時勢、きつと献血者が減っているだろうとの思いから、機会を見てせつせと伊勢の献血ルームに通いました。昨年の2月から数えるとなんと16回も献血して、われながら驚いています。

⑦自宅周りの草抜きに随分精を出しました。今年はドクダミがよく茂っています。諸説ありますが、「毒矯め」が転訛してドクダミと呼ばれるようになったのが通説のようです。毒を抑える薬草とも言われますし、花びらの形が赤十字に見えます。今号にもワクチン接種のお知らせを掲載していますが、対コロナのゲン担ぎにしたいものです。



Vol.205
教育委員会生涯学習課
☎ 1268

『ESDと人権』

SDGsという言葉を聞いたことあると思います。日本では「持続可能な開発目標」と訳されています。

私たちが暮らす地球社会には、貧困や飢餓、紛争やテロ、温暖化や気候変動、エネルギーや資源の枯渇など、解決しなければならぬさまざまな問題があります。SDGsは、このような問題を解決しないままでは、未来の地球は立ち行かないほどの危険な状態にあるとして、2015年9月、国際連合で採択されました。

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に

- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ 生きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ つくる責任つかう責任
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう
- ⑯ 平和と公正をすべての人に
- ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう

と、169の具体的な小目標で構成されています。どれも「人が生きること」と関連しており、人権尊重の考え方が根底にあります。前文に書かれている「誰一人取り残さない」という言葉は、その考え方を象徴しています。

SDGsの取り組みを自分のこととして考え、日常の生活で誰もがすぐに取り組めるものがたくさんあります。例えば、買い物にはエコバッグを持っていく、食べ物を残さない、使っていない家電の電源を切る、差別や不平等に気付くなど、一人ひとりの努力が地球を救い、同時に人権が尊重されることで、私たちの生活を豊かなものにするにつながるのです。